トップニュース

来日して帰敬式

ベトナム出身米国人夫妻

「門徒の自覚持ち人生歩む」

夫婦で帰敬式を受けるためにフング・ヴォーさん(67)とキム・オァン・ニュアンさん(63)夫妻が先ごろアメリカから来日。本山で念願の帰敬式を受け、門徒としての自覚をさらに強くもって人生を力強く歩むことを尊前で誓った(写真)。

夫妻は現在、バージニア州シャンティリーで暮らす。ともに旧ベトナム共和国の当時の首都・サイゴン市(現ホーチミン市)出身。ヴォーさんは18歳の時にアメリカの大学に留学。卒業後に帰国する予定だったが、1975年にベトナム戦争が終結し、それに伴う国家体制の変革を受けて、そのままアメリカにとどまった。また、ニュアンさんは15歳の時、家族とともに戦争終結後の混乱が続くサイゴンを脱出し、アメリカに移住した。

2人は同州フェアファックス・ステーションにある恵光寺のメンバー(門信徒)。ヴォーさんは「私も妻もベトナムで大乗仏教徒として育った。結婚して2人の娘が生まれ、娘たちにも仏法に触れてほしいと願い、州内や東海岸にある大乗仏教の寺院を探して回った。その時に見つけたのが恵光寺。私たち一家を、まるで家族のようにとても温かく迎え入れてくださった」と、同寺メンバーとなった経緯を語った。

長女のタン・チュルクさん(28)と次女のアン・トゥさん(26)は恵光寺の仏教青年会に所属し、両親より先にアメリカで帰敬式を受けている。チュルクさんは積極的に同寺の行事などに参加し、現在は開教使を補佐するミニスターズアシスタントをつとめるほど、教えを大事にしている。

帰敬式を終えた夫妻は「これで家族全員が浄土真宗の門徒の証である法名をいただくことができた。これからは門徒としての自覚をさらに強く持って、家族で力を合わせて人生を力強く歩んでいきたい。娘たちや恵光寺のメンバーの方々と協力して浄土真宗のみ教えを一人でも多くの人たちに伝えたい。そして、あのベトナム戦争の戦禍を経験した者として、平和な世界の実現を心から願っている」と声をそろえる。

1カ月間の日本滞在中には各地を訪問した。夫妻は「岐阜の白川郷で、本願寺派のお寺を訪ねた時だった。近所の門徒さんたちと一緒に本堂でおつとめし、お念仏を称えた。世界中にお念仏をよろこぶ仲間がいることを実感した。私たちを温かく迎え入れてくれた日本に感謝したい」と話した。

冬扉(阿弥陀堂門)

ご本山の阿弥陀堂門、開門の瞬間です。

阿弥陀堂門(重要文化財)は1802年(江戸後期)に建てられた門で、境内の北東側、その名前の通り阿弥陀堂の前に構えています。門扉の一部に、透かし彫りによる意匠があしらわれているところに特徴があります。

こちらは、元旦会に参集されるご門徒さんをお迎えする1年最初の開門時の写真です。右扉が開いたタイミングで撮影することで「開門中」をイメージしてもらいたいというのが撮影意図でした(扉が開きかけている写真も手元にはありますが、扉のブレが強すぎて没に)。

実は、この写真の前年にも、元旦の開門を撮るために門前にお伺いしていたものの、左右の扉の開門順を誤って記憶していたため、意図したイメージで撮影することができませんでした。ですので、今回の写真は1年後に再チャレンジした写真です。どんくさい話なのですが、まさかの1年越し撮影になった思い出の写真となりました。

なお、この写真は「大乗」令和6年1月号の表紙にもなっています。

撮影データ GFX50S GF63mmF2.8 R WR f4 S.S 2秒 ISO1600 (2020年1月1日撮影)

逢坂憲吾の 四季折々に 境内を歩いて

西本願寺の風景

四季折々に境内を歩いて

本願寺出版社刊 1650円(税込)

逢坂憲吾さんが約5年にわたり撮り重ねた本願寺の風景をまとめた写真集。お求めは本願寺出版社注文専用フリーダイヤル 0120-464-583。

二十歳の節目を祝う　京都女子大

宗門校・京都女子大学(京都市東山区)は12月9日、「二十歳の集い」を開催、69人の学生が振り袖やスーツ姿で出席した(写真)。式典は仏式で行われ、文学部2年・中井花実さんが誓いの言葉を述べた。同大では成人年齢引き下げに伴い、昨年度から名称を改めて、二十歳の節目を祝う集いを継続している。

尾崎別院が慶讃法要

尾崎別院は報恩講の初日となる11月26日、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要を営んだ。「宗祖讃仰作法(音楽法要)」をつとめ、山崎昌彦輪番が導師、崇敬区域の日根組、茅渟組の住職ら8人が結衆として出仕、別院仏教婦人会員の三井好子さんらがオルガン、チェロ、フルートを演奏した。おつとめの後、布教使の味府浩子さんが記念法話を行った。

前日には協賛行事を開催、95人が帰敬式を受けた。また、大阪雅楽会が雅楽演奏会を行った(写真)。尾崎別院を開基された本願寺第12代准如上人は、本願寺の法要に初めて雅楽を依用されたとされる。雅楽の調べに乗せて別院創建当時に思いを巡らせ、400年以上の歴史を超えて先人らにより今日まで護持されてきた別院を、僧侶、門信徒が一丸となり今後も長く護持していく思いを一層強くした。

2日間で325人の僧侶、寺族、門信徒らが参拝。この勝縁に「遇うてほんまよかったしな(泉州弁で遇えて本当によかった)」と喜びを分かちあった。

本願寺新報
hongwanji journal

1月10日(水曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派(西本願寺)
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

茶道 藪内家燕庵
京都市下京区西洞院正面下ル
http://www.yabunouchi-ennan.or.jp

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声
私の煩悩と仏のさとりは　本来一つゆえ
「そのまま救う」が　弥陀のよび声
ありがとう　といただいて
この愚身をまかす　このままで
救い取られる　自然の浄土
仏恩報謝の　お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された　歴代宗主の
尊いお導きに　よるものです

み教えを依りどころに生きる者　となり
少しずつ　執われの心を　離れます
生かされていることに　感謝して
むさぼり　いかりに　流されず
穏やかな顔と　優しい言葉
喜びも　悲しみも　分かち合い
日々に　精一杯　つとめます

赤光白光

年末から新年と、飲酒の機会が多い季節である。この時期の宴席で恥ずかしい思い出がある。余興の一つとして、最高級の酒の瓶の中身を安価な酒に入れ替えて反応を楽しむという、ちょっと意地悪な〝どっきり〟を経験した。最高級の酒のラベルを見て「これはすごい」と喜び、頭の中はおいしいモードでいっぱい。即答で「おいしい」と言って満足する。仕掛け人のネタばらしにがっかりした。すっかりとラベルにだまされた。

▼ラベリングという言葉がある。品物を判別するためにラベルを貼るという意味であるが、そこから転じて「レッテルを貼る」という意味でも使われる。知り得た情報だけで、一方的にその人や物を評価、判断するものだ。私がだまされたのも、ラベルを見ただけで判断したからだ。思い込みとは怖いものである。人に対してもよくラベリングをする。「あの人は○○だ」という決めつけの言葉がそれである。

▼世界的に人気のマンガ「ドラえもん」に、「出木杉くん」という登場人物がいる。名前の通り、優しく、性格もよく、絵に描いたような優等生である。周りから〝いい子〟とラベリングされる出木杉くん。好評価のようにも思えるが、案外、出木杉くんはそのラベルに縛られて、生きにくいかもしれない。

▼「あの人は○○だ」という固定化した評価は、酒のラベルを見て中身を勝手に思い込むのと同じである。ラベリングをせずに人と出会い、付き合いを深めていく。そこに人と人のつきあいの味がある。

表具師の技で鮮明に蘇る表装古典
寺宝継承の匠技
寺院用御影修復／在家用御本尊御洗濯／掛軸製造／襖／屏風／額／肖像画／日本画制作
西田松月堂
京都市下京区西本願寺前 TEL.075(371)9429 FAX.075(341)4609

香 薫玉堂 KUNGYOKUDO
伽羅・沈香・線香・匂い袋
香老舗 創業文禄三年(1594年)
薫玉堂
〒600-8349 京都市下京区堀川通西本願寺前 電話(075)371-0162

旬の味覚にひとひらそえて。
京ゆば 湯葉弥
京・五条御前東　電話 〇七五―三一四―五七八八
http://www.yubaya.co.jp

雅楽用打ち物・経切太鼓 その他宗教用太鼓一式製造元
修理などについてもお問い合わせ下さい
創業元禄初年
大笹屋
京都市左京区聖護院蓮華蔵町36
TEL 075-751-6889
FAX 075-751-7304
E-mail:m@ozasaya.com

施設管理は、オリックス・ファシリティーズ株式会社
本店 〒600-8385 京都府京都市下京区大宮通仏光寺下る五坊大宮町99
TEL 075-841-7550(代表)
FAX 075-841-7666

漫画 歎異抄
『歎異抄』って名前は知っている。だけど内容は知らない。知りたいけど、ムズかしい解説本はちょっと……。そんな方は、マンガで読めるこの本を手に。
【原作】岡橋 徹栄／【漫画】広中 建次
A5判／256頁 1,047円(税込)
本願寺出版社
〒600-8501京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺)
https://hongwanji-shuppan.com/
0120-464-583 FAX075-341-7753